



こころは申年さるどしなので、この季節のニホンザルの暮らしを紹介しましよ。一年で最も寒い今頃は、森の木々は葉や実を落とし、すっかり冬景色です。この季節には「スキー場からの帰りに、道路のそばでサルの群れを見たよ」という目撃情報ウイッチャクハが寄せ

られます。

雪の積もった森の中でも、サルは生きるために食べなければなりません。食べられるのは冬芽と樹皮こぶし（木の皮）だけ。富山の森のサルはクスやフジの皮、ヤマグワの冬芽や樹皮などを好んで食べます。冬芽や

## 冬芽・樹皮を食べる

樹皮には、春に若葉が芽吹くためのエネルギーが蓄えられていて、見かけ以上に栄養分があるようです。

これらの植物は、畑や道路脇などの日当たりのよい場所に生えるので、スキー場から帰る途中の道路で、食事のサルを見つけやすいのかもしれない。

（赤座久明）

雪の中、ヤマグワの小枝の上で冬芽を食べる子ザル